



平成29年度特集展示（会期：平成29年4月25日（火）～6月18日（日））

船原古墳出土馬冑・ガラス装金銅製辻金具

1 はじめに

平成25年3月、福岡県古賀市の船原古墳に隣接して、国際色豊かで豪華な馬具、武器、武具が大量に埋納された土坑（遺物埋納坑）が発見されました。

当館では発見以来、遺物の科学的調査や保存処置を古賀市教育委員会と共同で進めていますが、今回の特集展示では、国内3例目、九州初出土の馬冑とわが国初の発見となった、ガラス装金銅製辻金具を公開します。

2 船原古墳の概要

船原古墳は、犬鳴山地から派生する丘陵の裾からさらに延びる低丘陵上に立地し、馬具や武器、武具等を大量に埋納した土坑群を伴う、古墳時代後期の前方後円墳です。

この古墳は、平成8年度、農地改良工事に伴い発掘調査が行なわれ、埋葬主体が全長5.9mの奥室と前室からなる複室構造の横穴式石室を有する、全長25m程度の円墳と認識されていました。石室は盗掘を受けており、多くの副葬品がすでに失われていましたが、異形で用途不明の金銅製品や耳環、墳裾からは須恵器と土師器が出土しました。その後、平成24年度に古墳周辺において発掘調査が行なわれ、くびれ部の存在などから前方後円墳であると確認され、古墳の南西箇所土坑7基が見つかりました。



▲ 船原古墳全景（北西から）

このうち逆L字状の1号土坑（遺物埋納坑）からは、馬冑、心葉形鏡板付轡、金銅製歩揺付雲珠、ガラス装金銅製辻金具・雲珠、蛇行状鉄器等の馬具、漆塗飾弓、鉄鏃等の武器、挂甲等の武具など総数500点以上の遺物が一部、箱に入れられた状態で出土しました。これらは、全国的にみても、質、量ともに重要性が極めて高く、なかでも馬具は朝鮮半島との関係がうかがわせる遺物が多くみられます。

このほか、2号土坑からは、破砕された須恵器甕の下層から環状鏡板付轡、3号土坑からは鉄鏃束が出土しています。このうち2号土坑から出土した須恵器と古墳の墳丘から出土した須恵器とが接合したことにより土坑群と古墳が同時期に存在することがわかりました。以上のような出土遺物や横穴式石室の構造から、船原古墳は6世紀後半から7世紀前半に属すると考えられます。

このように船原古墳は前方後円墳であることや、国際色豊かで豊富な遺物を多量に保有することから、当時の外交や対外交流はもちろん大和政権との関係を考える上で、極めて重要な古墳であるといえます。こうしたことから、平成28年10月に国指定史跡となりました。

今後、遺物のX線CTスキャナ等による科学的調査や類例の調査をつうじて、船原古墳の被葬者像をはじめ、北部九州における古墳時代後期の政治や外交、対外交流、社会状況の解明が期待されます。



▲ 1号土坑（遺物埋納坑）出土状況

2 展示資料

(1) 馬冑

船原古墳1号土坑出土

馬冑は馬の頭部に装着する馬具で、複数の鉄板を銚で連結して作られています。国内において馬冑は、和歌山県大谷古墳、埼玉県將軍山古墳の2例が知られており、本資料は国内3例目、九州では初出土となります。

構造上の特徴としては、馬の目の間から鼻先を覆う部分の「上板」が1枚の羽子板形の鉄板で作られていることなどから、大谷古墳の馬冑と形状が近いといえます。また、各鉄板の端部は、外側に折り返して処理されており、丁寧に作られています。

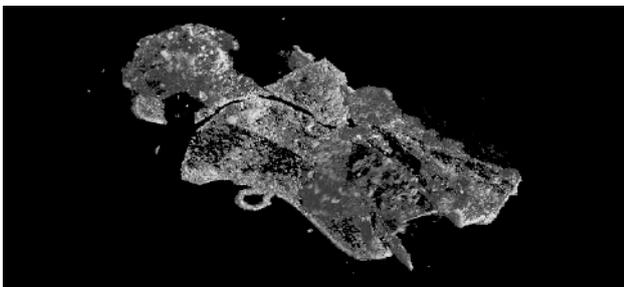
そして、馬の頬の部分に吊り下げられている、半円形の「頬当部」に鉸具(バックル)が取り付けられる特徴や、全体が直線と曲線が組み合わさった、流れるようなフォルムは、国内の2例には見ることができない、実用性と美しさを兼ね備えたデザインです。



▲ 馬冑 (古賀市教育委員会蔵)



▲ 馬冑 出土状況



▲ 馬冑 X線CT画像

(2) ガラス装金銅製辻金具

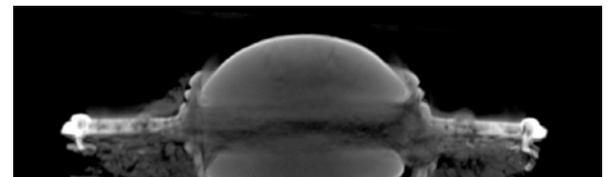
船原古墳1号土坑出土

辻金具は、馬に馬具を装着するための革帯が交差する位置に取り付けられる馬具です。

本資料の特徴は、中央部が白色で周囲を鍍金した金銅であることですが、こうした辻金具の白色部分は、これまでイモガイをはじめとする貝製であると考えられてきました。ところが、この辻金具の白色部分の材質分析を行なったところ、「鉛ガラス」であることがわかりました。ガラスで装飾された辻金具は、わが国初の発見であり、朝鮮半島においても、慶州皇南大塚など数例しか発見されていない、極めて貴重な発見といえます。こうしたガラスで装飾される馬具は、朝鮮半島において、新羅でみられることから、本資料は、この地域との関係性をうかがうことができます。



▲ ガラス装金銅製辻金具 (古賀市教育委員会蔵)



▲ ガラス装金銅製辻金具 X線CT画像

(3) 耳環・用途不明金銅製品

船原古墳石室内出土

平成8年の発掘調査において、石室内から出土した数少ない遺物です。耳環は、銅を芯に鍍金して装飾されています。また、あたかもマラカスのような形状である金銅製品は、同じような種類の出土事例がなく、全体がどのような形状で、その用途自体も不明です。球状の部分には、麻と思われる繊維が詰まっていますが、この繊維を詰めた目的も、今のところわかっていません。

このように不明な点が多く、出土事例のない、この資料も船原古墳の特異性を物語ります。

(学芸調査室 加藤和歳)



編集 発行: 平成29年4月25日

九州歴史資料館
KYUSHU HISTORICAL MUSEUM

〒838-0106 福岡県小郡市三沢 5208-3
TEL 0942-75-9575 FAX 0942-75-7834
URL <http://www.fsg.pref.fukuoka.jp/kyureki/>